

# まつど更女だより

2023年3月31日発行  
第28号  
編集・発行/松戸地区  
更生保護女性会  
発行責任者/太田麗子



## まつど更女だよりによせて

松戸市長 本郷谷 健次

日頃から、松戸地区更生保護女性会の皆様におかれましては、温かく、柔らかくで細かな女性の目を通して、犯罪・非行に陥ってしまった方の立ち直り支援や、青少年の健全育成・子育て応援活動をいただくとともに、犯罪・非行のない明るい社会づくりの推進のために、様々な活動を行っていただいておりますことに御礼申し上げます。

さて、本市は、人口50万人規模を維持する一方で、刑法犯認知件数が令和3年中で2,645件と、最も多い平成11年の13,677件と比べて80.7パーセントの減少となりました。地域防犯の活動が着実に成果に結びついたことは、太田会長をはじめ会員の皆様の奉仕活動にかける熱意とご尽力によるものと、心から感謝申し上げる次第でございます。

新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化で、人と人とのつながりの希薄化が顕著な問題として現れる昨今、改めて、地域の絆の重要性が求められております。感染拡大防止策を講じての活動には、様々な支障やご苦労があるものと推察しますが、先行きの見えない今だからこそ、自分らしく生きるために皆様の活動を必要としている人は多いのではないのでしょうか。

ぜひ、これからも更生保護活動の中でその精神を広めていただき、安全安心なまちづくりにご協力くださいますようお願い申し上げます。



## コロナ禍の規制の中での活動

会長 太田 麗子

令和4年度もコロナ禍からは逃れられず、この3年間ほとんどの活動ができない状態でした。そしてウクライナ紛争も勃発し、「次代を担う青少年の健やかな育成」を綱領に掲げる更生保護女性会としましては、どのように暮らしているのかと胸が痛みます。

またコロナ禍により、人生の大切な3年間の中学校生活に支障をきたし、卒業を迎える3年生方へせめてものお祝いとして手作りの「栞」を作製しました。松戸市内21の中学校、の内3校は昨年度にお贈りしましたが残り18校分を今年度にお渡しする予定で計7,000枚作製しました。生徒のみなさんの笑顔を思いながら作製する中で、私達が一番癒されていました。

更女会活動も、2カ所(矢切・小金)のふれあい広場に参加することができました。

令和5年2月1日は3年間自粛していたバス研修、児童自立支援施設「国立武蔵野学院(厚生省管轄)」の講堂や広大な敷地内での説明を受け、こども達が生活するのにふさわしい施設でした。

徐々に来年度に向けての、期待が持てるようになり、嬉しい限りです。

# 「今、そして未来を」



千葉保護観察所長 岸 規子

松戸地区更生保護女性会の皆様方におかれましては、新型コロナウイルスの影響がなお続く中、様々な工夫をされながら、皆様の温かな想い、更生保護の心を地域に届け続けてくださっておりますことに深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

近年、孤立や孤独など社会における様々な生きづらさの問題が指摘されています。こうした中、多彩な活動を通じて地域の絆を豊かにする更生保護女性会の活動は、温かに支え合う社会づくりになくてはならない、ますます大切なものとなっています。

ところで、表題は更生保護のシンボルマークにちなんだものです。「生」の字をモチーフとし、樹木の芽が伸びていくように、今を、そして未来を生きていく様を表現しています。描かれてはいないものの、しっかりと根が張り、支えている、私にはそのような印象のマークです。

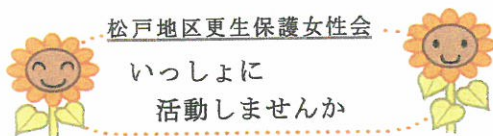
皆様にはくれぐれも御健康に留意いただきながら、今、そして、未来の子供たち、地域社会のために、新年度もお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



(シンボルマークをつけたホゴちゃん)

## 犯罪や非行からの再出発を支える 「地域のチカラ」

2月6日（月）松戸地区更生保護関連団体交流会が、男女共同参画センターにて開催されました。



非行防止と罪を犯した人の更生を支える活動をしているボランティア団体です。

松戸地区更生保護女性会

検索

## 「きれいな花に癒されて」

支援部 田岡 恵子

今年度も春と秋に児童養護施設晴香園の花だんの整備を行いました。当日は、会員の他に、園の子供たちや職員の方々もお手伝いいただき、皆でワイワイと楽しく作業することが出来ました。

苗を植えた後は、たっぷりの水を撒きますが、子供たちは水遊びが大好きで、いつもホースの取り合いです。最後に周辺の掃除をし、生き生きとしたきれいな花を見ると、心が和み元気が出ます。

この花だんを目にした方々も、同じ思いになってくださると、うれしいですね。



# 「国立武蔵野学院バス研修に参加して」

市村 亜衣

寒い中でも暖かさを感じる晴れの2月1日、埼玉県にある国立武蔵野学院を訪問しました。自然豊かで且つ東京ドーム2.5個分という広大な地に学院はありました。国立の児童自立支援施設は全国に2か所あり、男子が入所できるのはこの武蔵野学院。入所する9割が被虐待児であり、県立の児童自立支援施設で対応が困難だった児童が入所し、専門的な指導を受けます。令和5年現在は24名の児童が生活しており、6寮に分かれて暮らしています。

武蔵野学院での生活は約1年半。専門的なケアから学校での教育、多様な行事等、様々な経験をします。特に深く傷ついた子どもたちが住込みの職員と時間を共にし、自他共に信頼を取り戻していく…その過程は想像以上に過酷なものだと思いました。退所後彼らが自信を持って生きていくには、学院での生活は非常に重要な礎になることを感じました。

## 《広報部》

コロナ禍で活動制限があるなか、見学を受け入れてくれる施設があり、3年振りの施設訪問（バス研修）が開催されました。参加者は17名。（更女会員16名、市職員1名）で市のマイクロバスを利用しました。

児童自立支援施設（厚生労働省所管）は全国に58ヶ所設置されています。内訳は、国立2ヶ所、埼玉県に武蔵野学院（男子）と栃木県にきぬ川学院（女子）です。公立は54ヶ所、私立は2ヶ所です。

この敷地には、国立武蔵野学院附属人材育成センター養成部があり、4年生大学卒であれば、1年間無料で勉強でき、かつ4つの資格が取得できるとのことです。

（児童自立支援専門員・児童指導員・児童福祉司・社会福祉主事）

当施設では、この資格を取得したご夫婦が一寮舎ごとにおり、共に生活し、共に育て自立向上につなげていく思いで支えています。寮母歴30年以上のベテランの寺岡さんは、ここで知り合った方と結婚され、ご家族ぐるみで生活を共にしているとお話がありました。

広大な敷地で、森林浴を味わい、リフレッシュすることが出来、参加者からは有意義な研修でしたとの声が多く聞かれました。



広大な田畑



寮舎



手作りの看板



## 〔帰性会訪問〕

令和4年7月28日

広報部 佐藤 せつ子

令和4年7月28日、太田会長、吉本副会長、櫻井、遠峯、佐藤の5名にて伺いました。当日はとても暑い日でした。補導主任の石川さんが笑顔で迎えてくれ、冷たいお茶をいただきました。この施設は25名入所できるのですが、コロナ禍のため現在は20名です。2名用の部屋も1名ずつ入所しているとの事でした。館内を見学し、食堂はきちんと整理され使いやすそうでした。各部屋にテレビもありますが、食事の後、別の部屋の大きなテレビで、他の入所者と視聴出来るとのことでした。また、千葉市内の中央区と若葉区の更生保護女性会の方が定期的にボランティアで夕食作りのため訪問し、入所者のみなさんにも喜ばれているそうです。石川さんは新松戸より通勤しているとの話をされ、思わず親しみを感じました。

## 表彰おめでとうございます

### 第65回千葉県更生保護大会

令和4年11月17日(木) 勝浦市芸術文化センター Küstelにおいて開催されました。



◇千葉保護観察所長感謝状

大黒 幸子様

◇千葉県更生保護女性連盟会長表彰

石井 久子様

### 第40回松戸市社会福祉大会表彰者

令和5年2月19日(日) 松戸市民会館にて

社会福祉協議会特別功労賞 馬場 計 様

## 令和4年度 「新入会員研修会」に参加して

期日：令和4年6月28日 会場：千葉市生涯学習センター



市村 亜衣

まだ、更生保護女性会に参加して数ヶ月という新参者でありながら、千葉県各地から更生保護に携わろうと志の高い方々にお会いする機会を得ることが出来、大変光栄でした。

今回の研修を通して更生保護女性会の長い歴史、各地域での様々な活動、それを支える関係者の強い想いを学びました。特に「地域」がキーワードであり、デジタル社会で希薄になりがちな「人との繋がり」が更生保護では重要だということを知りました。

私自身はこれまで社会福祉分野に携わっており、言葉として更生保護を理解していたと思いますが、その中の理念は深く理解出来ていなかったことを痛感致しました。時代と共に問題は多様化し、更生保護活動の形も柔軟に変えていく必要がある状況の中で少しでも貢献できるよう勉強していきたいと思っています。

## 贈る言葉、葉に込めて

伊藤 奈美子

3月初め市内中学校に葉をお届けしました。卒業式を控え3年生を送る会や卒業式の練習が行われていて、生徒の皆さんの歌声が響いていました。

それぞれの思いを胸に大きく羽ばたいてください。ご卒業おめでとうございます。



中学校にお届けした葉



和名ヶ谷中学校



旭町中学校